

研究開発成果 実装支援プログラム
平成24年度 報告書

実装活動の名称

「WEBを活用した園児総合支援システムの実装」

採択年度	平成22年度
実装機関名	筑波大学大学院
実装責任者	安梅 勅江

I. 概要

1. 作成したホームページ（保育パワーアップ研究会）の継続的な運用を行い、WEB園児支援システムの普及を行った。新規に6園が本システムの導入を行った。
2. 開発したWEB園児支援システムの継続的な運用を行うとともに、ユーザー（導入した保育所、幼稚園）の意見を反映したカスタマイズを行った。インターフェイス、入力やレポート表示ボタンの配置、育児環境評価レポート、一般発達評価レポートなどが改訂され、より実践のニーズを反映したシステムとなった。eラーニングシステムとして活用可能な、保育支援設計レポート機能を作成した。
3. 開発したWEB園児支援システムの内容妥当性の検証を行った。アセスメントに必要な園児情報の収集と理解、アセスメント、目標の明確化、支援、評価、継続的な情報活用、関連・因果関係の検証というPDCAサイクル展開に寄与する機能を内包することから、システムの内容的妥当性が示唆された。
4. 本研究における支援期間終了後の目標（到達点）を含み、本システムの活用により向上すると考えられる保育専門職の専門性スキルを、量的に測定する「園児情報活用スキル尺度」の開発と信頼性・妥当性の検証を行った。2因子26項目で構成される園児情報活用スキル尺度が開発された。単純構造に近い因子パターンを有している結果から因子的妥当性が確認された。Cronbachの α 係数は高い値を示し、内的一貫性の側面から信頼性が確認された。保育の質向上につながるとされる「経験年数」「保育環境評価票」との有意な正の相関が得られたことより、基準関連妥当性（併存的妥当性）が確認された。概念に共通性がみられるCommunicative and Critical health literacy尺度の各下位尺度との有意な正の相関が見られたことより、構成概念妥当性が確認された。本尺度を活用することで、保育専門職自身が、園児情報をPDCAサイクルの中で活用し、一人一人の子どもの力を最大限に引き出す「園児情報活用スキル」を自己評価し、質の高い専門技術を検討して行ける可能性が示唆された。
5. 保育専門職、システム開発者、研究者で構成される保育パワーアップ研究会を開催し、WEB園児システムの改定点、eラーニングシステム（支援設計レポート）の活用法などに関する検討を行った。

II. 実装活動の具体的内容

1. ホームページ（保育パワーアップ研究会）の継続的な運用

(1) 運用したホームページの構成

運用したホームページは、「トップページ」「根拠に基づく保育とは」「根拠に基づく実践とは」「根拠に基づくツール」「気になる子どもの実践例と評価」「根拠に基づくツール活用法」「WEBを活用した園児支援システム紹介」「保育パワーアップ研究会メンバー」「リンク集」「保育パワーアップ相談室」で構成（図1, 2）された。

ホームページのURLは、「<http://childnet.me>」である。

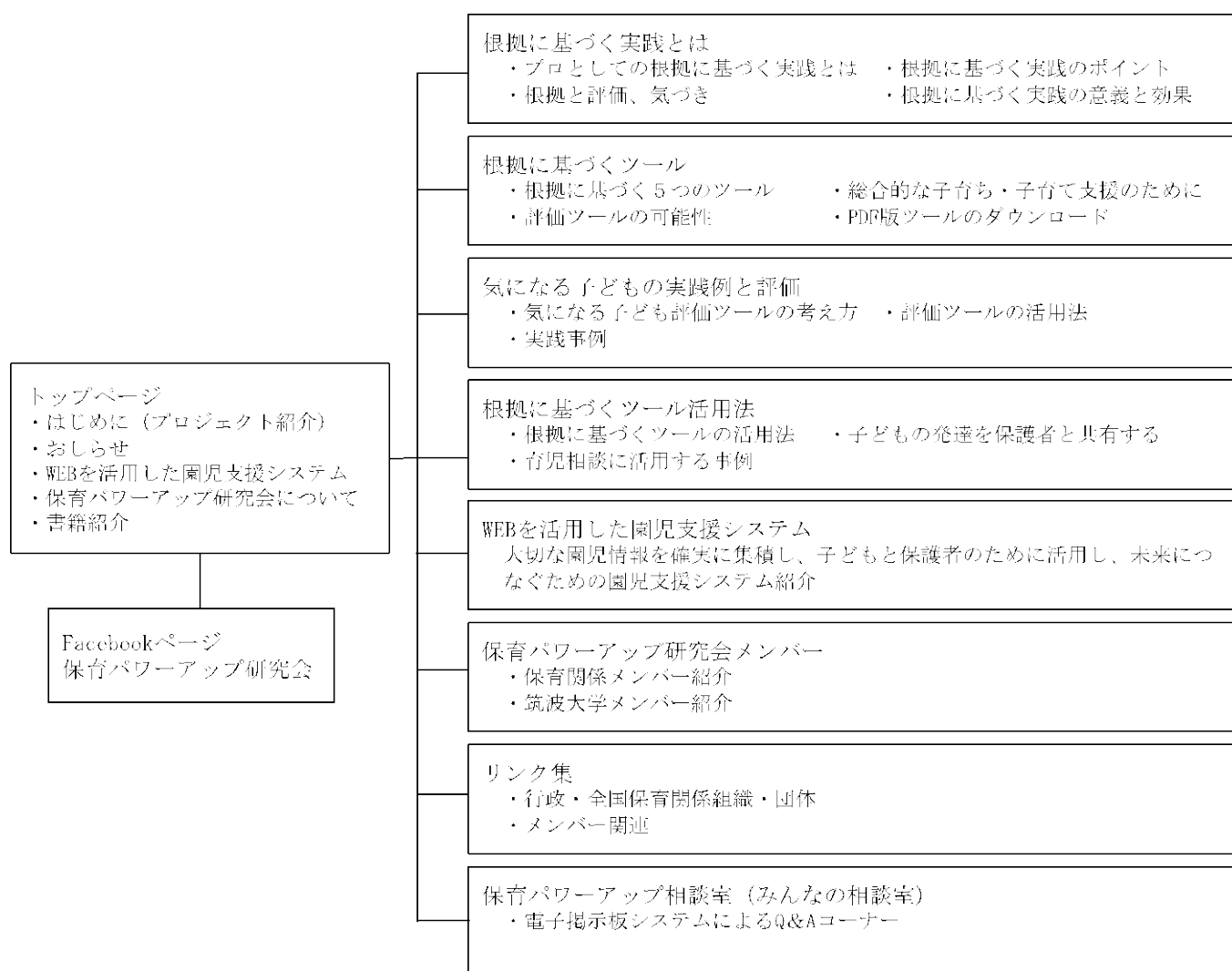


図1 ホームページの構成



図2 ホームページのイメージ

(2) 運用したホームページのアクセス解析

Google Analyticsを用いて、平成24年10月1日から、平成25年3月28日までのアクセス数を集計した(図3)。6か月間の総ページビュー数は、2012であった。月別アクセス数は、219～417であり、ホームページの活性化が平成25年度の課題である。

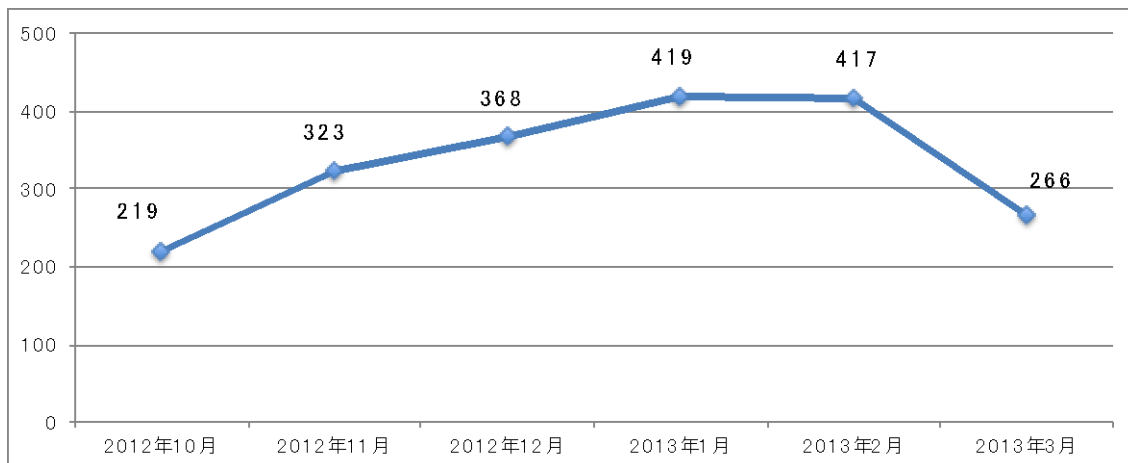


図3 ホームページアクセス数

(3) ホームページを通しての本システム申込数

発信だけの一方通行のサイトではなく、意見交換を行なえる「電子掲示板システム」を掲載し、350を超える書き込みを確認した(図4)



図4 電子掲示板システム

(4) ホームページを通しての本システム申込数

ホームページを通して、26の保育所からWEB園児支援システム体験版の利用申し込みがあり、6保育所がWEB園児支援システムの導入を行った。

2. WEB園児支援システムの継続運用とカスタマイズ

開発したWEB園児支援システムの継続的な運用を行うとともに、ユーザー（導入した保育所、幼稚園）の意見を反映したカスタマイズを行った。インターフェイス、入力やレポート表示ボタンの配置、育児環境評価レポート、一般発達評価レポートなどが改訂され、より実践のニーズを反映したシステムとなった。e-ラーニングシステムとして活用可能な、保育支援設計レポート機能を作成した。

(1) システムの継続運用

平成23年度からの継続 32保育所、新規導入 6保育所が、本システムを活用した。

(2) ユーザー意見を反映したシステムのカスタマイズ

1) 全体像

- ① 園児一覧画面、個人画面、個人レポート、園レポートなど、すべての画面に「このページのトップに戻る」ボタンを付けた。



- ② 園児一覧画面のフィルタの「クラスを選択」「年齢を選択」のボタンは、「クラスを選択（全選択）」「年齢を選択（全選択）」のように表示を変更した。
- ③ 園児一覧画面のフィルタに、誕生月の選択ボタンを追加した。



- ④ 帳票一括出力機能をつけた。



- ⑤ ツール選択欄に、「すべて表示」のボタンを作成し、未入力ツールを確認できるようにした。




- ⑥ タイトルやボタンなどの表示を、「評価」から「チェック」に変更した。
(レポートのみ、定期調査レポート、随時調査レポート)
- ⑦ 「定期チェックはお誕生日にお願いします」というコメントを追加した。



2) レポート

- ① 年度選択ができるようにした.

 **つくばなかよし園のプロフィール**

園情報

園番号	O-0000000001
年度	2012年度 ▾
登録園児数	158名 (男児 93名 / 女児 65名) 0歳 2名 / 1歳 3名 / 2歳 12名 / 3歳 24名 / 4歳 28名 / 5歳 33名 / 6歳 29名

[気になる子ども一覧 !\[\]\(7d3baa4a1e2eb16baa6754b1950f1e79_img.jpg\)](#)

- ② アラートの表示, 非表示の切り替えボタンができるようにした.
- ③ 個人レポートに, 生年月日表示を追加した.

[支援設計レポート !\[\]\(9783378eb13e0d320c1da76530f77bab_img.jpg\)](#) [随時レポート !\[\]\(840d6c115e0cb8b06948cdaae91bd8ec_img.jpg\)](#)

園児情報

年度	2012年度 ▾	
クラス		
氏名 / 年齢	もりいみゆき 森井 みゆき (女)	(2009年12月25日生)

表示設定

閲覧者の選択

- 保育専門職
- 保護者

アラートメッセージの表示設定

- 表示する
(アラートメッセージ全文表示)
- 非表示

[設定を閉じる](#)

3) 個人調査シート

- ① これまでは、上書き保存により最新の情報のみ表示させていたが、年度選択ボタンを追加し、年度ごとの変更内容を保存できるようにした。
- ② 身長、体重の項目を追加した。

年度

園児情報 (2012年度)

子どもの姓名	森井 みゆき
ふりがな	もりい みゆき
性別	女
生年月日	2009年12月25日(平成21年12月25日)
身長	cm
体重	kg
入園年月日	
担当保育者	

4) 気になる子ども一覧表示

- ① 気になる子ども一覧表示画面にタブを設け、タブの切り替えにより、個人別一覧表示と項目別一覧の2種類を表示できるようにした。

個人別一覧 項目別一覧

だるまさんころんだ (1歳 2ヶ月)

30.気になる癖 (1)指しゃぶり

1.寝る前などに親指やその他の指をしゃぶる か

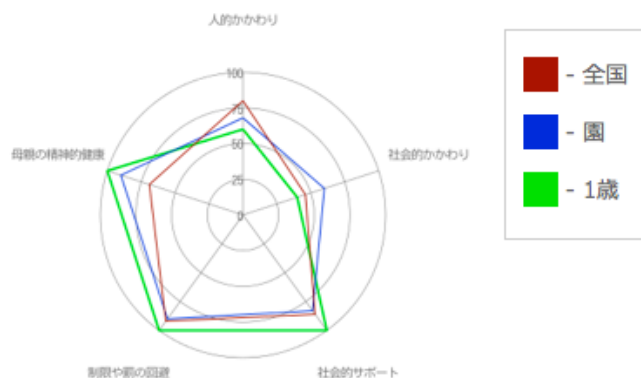
閃きよし (1歳 3ヶ月)

2.不自然な泣きぐせ

哺乳後、寝かせようとするとうすぐ泣いてしまう 子 保

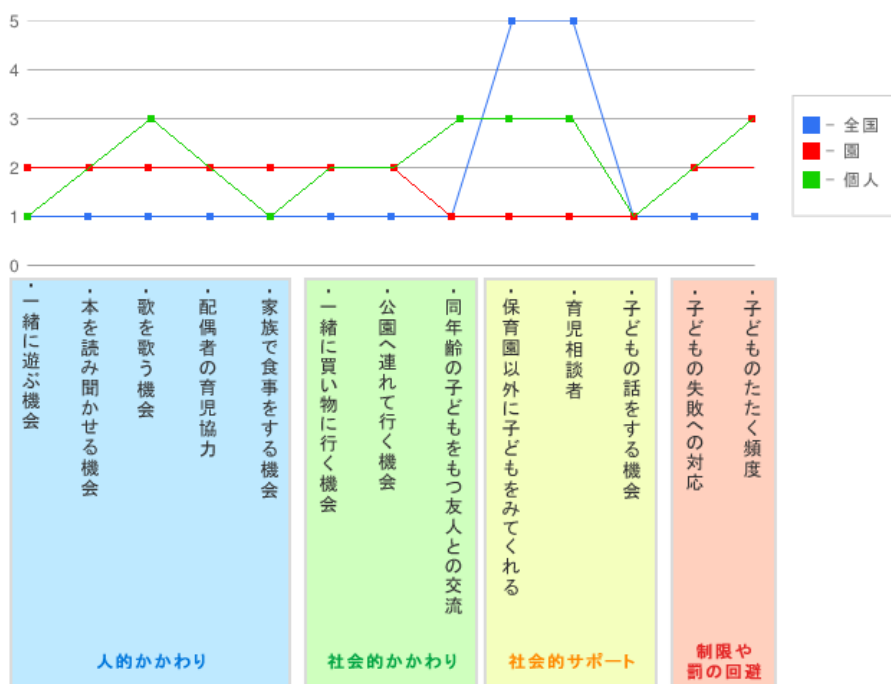
5) 育児環境評価票

- ② レーダーチャートの項目「母親のストレス」を「母親の精神的健康」との表記に変更した.
- ③ 養育環境グラフに, 「円の外側に近いほど望ましい養育環境です」のような言葉を追加した.
- ④ 養育環境評価グラフを拡大表示可能とした.



拡大表示
 ※円の外側に近いほど望ましい養育環境です

- ⑤ 養育環境の5項目について, さらに「13項目のグラフ」を表示させた.



6) 一般発達評価票

- ① 発達評価票の出力様式を追加した。(A4版(A3に拡大可能), 紙ベースの発達評価票と同じ形で出力可能.)
- ② 発達評価票の出力様式に「園名」の欄を追加した.
- ③ 発達評価票の出力様式は, 前回と今回の比較ができるようにした(結果表示枠を2列にし, 2回分の結果を表示させた.)

発達チェック

発達のみやす

印刷

園名	つくばなかよし園	年度	2010	クラス	名前/年齢	森井 みゆき (1歳1ヶ月)	実施日時	1: 1歳1ヶ月(2010/12/01) 2: ()	担当保育者	1: 2:	
年齢	運動発達				社会性発達				言語発達		
	粗大運動		微細運動		生活技術		対人技術		表現	理解	
	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	
7:06	片足で30秒立つ		ピアノやオルガンで好き ようにひく		ほうきで掃除をする		ひとりがちりとりを持ち、一人 がほうきを持って協力して掃除 をする		ひらがなの本を完全に読む		簡単な足し算ができる
7:00	まりつきでまりを脚の下に くぐらせる		風船や輪を自分で折る		ひもを結びにする		友だちがやって欲しいことを察 してやってあげる		幼児語をほとんど使わなくな る		時計の針を正しく読む
6:06	ひとりで縄跳びをする		絵の具で絵を描く		手ぬぐいや雑巾を絞る		はば抜きができる		ひらがなの本をだいたい読む		トランプの神経衰弱をする
6:00	片足で10秒立つ		人物画(6部分)		ひとりで外出の支度が完 全にできる		ひとりで簡単なルールのゲーム ができる		自発的に物語を話す		反対語がわかる(2/3)
5:06	ブランコをこきながら立っ たり座ったりする		よく飛ばすように飛行機の折 り方や飛ばし方を工夫する		体をタオルで拭く		店で買い物をしてお釣りをもら う		しりとりをする、つなげる		なぞなぞをする
5:00	片足で5秒立つ		人物画(3部分)		ひとりで外出の支度がほ ぼできる		まねて簡単なルールのゲームが できる		まねて物語を話す		空想、疲労、寒いを理解す る(2/3)
4:08	スキップができる		紙飛行機を自分で折る		ひとりで着衣ができる		砂場で二人以上で協力して一つ の山を作る		文章の復唱。(2/3)		左右が分かる
4:04	ブランコに立ち乗りしてこ ぐ		はさむボールをつかむ		信号を見て正しく道路を 渡る		ジャンケンで勝負を決める		四数詞の復唱。(2/3)		数の概念が分かる(5まで)
4:00	片足で散歩跳ぶ		紙を直線にそって切る		入浴時、ある程度自分で 体を洗う		おとなに断って移動する		両親の姓名、住所を言う		用途による物の指示。(5/5)
3:09	縄跳び(両足をそろえて前 に跳ぶ)		十字を書く		鼻をかむ		友だちと順番に物を使う(ブラン コなど)		文章の復唱。(2/3)		数の概念が分かる(3まで)
3:06	三輪車をこげる		投げたボールをつかむ		手を洗って拭く		友だちにおもちゃを貸したり借 りたりする		文章の復唱。(1/3)		数の概念が分かる(2まで)
3:03	でんぐり返しをする		ボタンをはめる		顔をひとりで洗う		「こうしていい?」と許可を求 める		同年齢の子どもと会話ができ る		高い、低い、低いが分かる
3:00	片足で2~3秒立つ		はさみを使って紙を切る		上着を自分で脱ぐ		ままごとで役を演じることがで きる		二語文の復唱。(2/3)		赤、黄、青、緑が分かる (4/4)
2:09	立ったままぐるぐる回ると 戻る		まねて丸を書く		靴をひとりで脱ぐ		年下の子どもの世話をやきたが る		二数詞の復唱。(2/3)		長い、短い、短いが分かる
2:06	足を交互に出して階段を上 がる		まねて直線を引く		ごぼさないでひとりで食 べる		友だちとけんかをすると言いつ けに来る		自分の姓名を言う		大きい、小さいが分かる
2:03	両足でびよんびよん跳ぶ		鉄棒などに両手でぶら下 がる		ひとりでパンツを脱ぐ		電話ごっこをする		「きれいね」「おいしい ね」などの表現ができる		鼻、髪、歯、舌、へそ、爪 を指示する(4/6)
2:00	ボールを前にける		積木を横に二つ以上並べ る		排尿を予告する		主養育者から離れて遊ぶ		二語文を話す(「わんわん 来た」など)		「もうひとつ」「もうすこ し」が分かる
1:09	ひとりで一段ごとに足をそ ろえながら階段を上げる		鉛筆でぐるぐる丸を書く		ストローで飲む		友だちと手をつなぐ		絵本を見て3つの物の名前を 言う		目、口、耳、手、足、腹を指 示する(4/6)
1:06	走る		コップからコップへ水を移 す		パンツをはかせる時、両 足を広げる		困難なことに会おうと助けを求 める		絵本を見て1つの物の名前を 言う		絵本を読んでもらいたがる
1:04	靴をはいて歩く		積木を二つ重ねる		自分の口もとをひとりで 拭こうとする		簡単な手伝いをする		3語文を言う		簡単な指示を実行する
1:02	レ 2~3歩を歩く		コップの中の小粒を取り出 そうとする		お菓子の包み紙を取って 食べる		ほめられると同じ動作を繰り返 す		レ 2語文を言う		レ 要求を理解する(3/3)
1:00	レ 座った位置から立ち上がる		レ なぐり書きをする		レ さじで食べようとする		レ 主養育者の後追いをする		レ 言葉を1~2語、正しくま ねる		レ 要求を理解する(1/3)
0:11	レ つたい歩きをする		レ おもちゃの車を手で走らせ る		レ コップを自分で持って飲 む		レ 人見知りをする		レ 音声をまねようとする		レ 「バイバイ」や「さよな ら」の言葉に反応する
0:10	○ つかまって立ち上がる		レ ひんのふたを開けたり閉め たりする		レ 泣かずに欲求を示す		レ 身振りをまねる(オウムデ ンなど)		○ さかんにおしゃべりする (喃語)		○ 「いけません」と言うと、 ちよと手を引っ込める
0:09	○ 物につかまって立っている		○ おもちゃのたいごをたたく		○ コップなどを両手で口に 持つていく		○ おもちゃを取られると不快を示 す		レ タ、タ、チャなどの音声が 出る		○ 知っている人の声を聞き分 ける
0:08	○ ひとりで座って遊ぶ		○ 親指と人さし指でつかもち うとする		○ 顔を拭こうとするといや がる		○ 鏡を見て笑いかけたり話しか けたりする		○ マ、ハ、ハなどの音声が 出る		○ 声の方に振り向く
0:07	○ 腹ばいで体を回す		○ おもちゃを一方の手から他 方に持ち替える		○ コップから飲む		○ 親しみに怒った顔が分かる		○ おもちゃなどに向かって声 を出す		○ 相手の話し方で感情を聞き 分ける
0:06	○ 寝返りをする		○ 手を出して物をつかむ		レ ビスケットなどを自分で 食べる		○ 鏡に映った自分の顔に反応する		○ 人に向かって声を出す		○ 見て笑いかける
0:05	○ 横向きに寝かせると寝返り をする		○ カラカラを振る		○ おもちゃを見たと動きが 活発になる		○ 人を見たと笑いかける		○ キヤーキヤー言う		○ 主養育者の声と他の人の声 を聞き分ける
0:04	○ 首がすわる		○ おもちゃをつかんでいる		○ さじから飲むことができる		○ あやされるとうちを出して笑 う		○ 声を出して笑う		○ 話しかけられた方を向こう とする
0:03	○ 仰向けにして体を起こした 後、うつ		○ 顔に触れた物を取ろうとし て手を動かす		○ 顔に布をかけられて不快 を示す		○ 人の声がある方に向く		○ 泣かずに声を出す		○ 人の声で静まる

7) ホーム画面の追加

- ① 園児一覧画面に入る前の、ホーム画面を追加した

園児総合支援システム

ログアウト

サンロフト幼稚園 様

支援ツール

 発達チェック <p>実際に日本の3万人以上の園児の年齢別の発達を調べ、それに基づいて作られた「発達の目安」です。</p>	 社会的スキル尺度 <p>対人技術発達チェックリストを用いることで、日本の標準的な子どもの発達と比較して、その子どもの位置を確認することができます。</p>
 気になる子ども支援 <p>子どもの姿の全体的な理解と、気になる子どもが特に支援が必要かどうかを見極め、支援に役立てるためのものさしです。</p>	 養育環境チェック <p>米国で開発され世界で100か国以上で活用されている指標です。保護者に記入してもらい、日頃の子どもの家庭環境の様子を5分程度で把握できます。</p>
 保育環境チェック <p>子どもの健やかな成長に望ましい効果をもたらす保育環境について、長時間保育の携わる4千人の専門職の意見を集めて整理しました。</p>	

初期設定

 園情報の編集 <p>園名やクラス名、担当保育者、保護者用入力ページのパスワード設定などができます。</p>	 園児の新規追加 <p>園児リストに新規で園児情報を追加します。</p>
 園レポート <p>自園の平均の確認や全国との比較などができます。</p>	 パスワードの変更 <p>園児総合支援システムにログインするためのパスワードを変更できます。</p>

関連リンク

[保育パワーアップ研究会](#)

Copyright (C) 2011 International Community Care and Lifespan Development All rights reserved.

8) e-ラーニングシステムとして活用可能な保育支援設計レポート機能作成

- ① 目標, 課題, 背景, 影響要因, 支援方法, 根拠で構成される「支援設計レポート」システムに追加した.
- ② 「背景」「影響要因」「根拠」は, システムに入力されたデータから自動入力できるようにした.
- ③ 「課題」は, 一部はシステムから自動入力し, 自動入力された「背景」「影響要因」「根拠」を参照しながら, 手入力追加が可能とした.
- ④ 「目標」「支援方法」は, 「課題」「背景」「影響要因」「根拠」から検討しながら作成できるようにした.
- ⑤ 支援設計全体について, 主任や園長が, コメントやアドバイスを書き込めるようにした.
- ⑥ 支援設計レポートから, プロフィール画面に身長, 体重などを追加編集できるようにした.
- ⑦ 支援設計レポートに「自由入力」欄をもうけ, アレルギーの情報などを追加できるようにした.
- ⑧ 「根拠」について, グラフを用いて視覚的に確認できる表示とした.

個人調査シート
森井 みゆき 支援設計レポート

随時レポート
定期レポート

年度 2012年度 ▼
最終更新: 2013/01/27 22:24:35

園児情報 園児情報を編集

氏名	森井 みゆき			備考
年齢	2歳 6ヶ月	性別	女	
担当保育者	E.M			
身長	cm	入園年月日		
体重	kg	保育時間	09:00~19:30	
カウブ		同居家族	5人、父、母、兄1人、姉1人	

1 目標 次へ / コメントを編集

目標のコメントを入力します。
目標のコメントを入力します。

2 課題 次へ 前へ / コメントを編集

3 背景 次へ 前へ / コメントを編集

すべて表示

3
背景
次へ 前へ コメントを編集

[すべて表示](#)

1.音に対する反応の異常
周りの音に神経質に反応し、不安定になる

3.抱きにくい
(自由記述)

13.こだわり
タオル等を持ったり口にくわえたりすることで落ち着こうとする

15.不自然な食
食にむらがある

子…子ども
 保…保護者
 か…かかわり
 環…環境
 不…不明

4
影響要因
次へ 前へ コメントを編集

子どもの要因
編集する

保護者の要因
編集する

かかわりの要因
編集する

保護者を取り巻く環境の要因
編集する

5
支援方法
次へ 前へ コメントを編集

6
根拠
前へ コメントを編集

一般発達
ツールの活用

- 1歳

- 粗大運動- 微細運動- 生活技能

3. WEB園児支援システムの内容妥当性の検証

(1) 目的

本システムが園児情報のアセスメント、実践、実践の評価、よりよい実践へのフィードバックというPDCAサイクルの展開のための機能を内包するかどうかにより、内容的妥当性を確認した。

(2) 対象と方法

本システムの開発のために開催した全10回の会議記録を分析の対象とした。会議記録は、2名の記録者が会議参加メンバーの発言を、その場で要約して速記し、会議後に照合し、互いの記録の抜けているところを補い1本の記録としたものである。この記録は、会議ごとに、参加メンバー全員に配布し、内容の記載に間違いがないことを確認している。

会議の開催日は平成22年9月から平成23年10月、参加者は保育士、保育園連盟役員、保育管理職などの保育専門職、乳幼児に関する研究を専門とする研究者、システム開発専門家であった。

(3) 結果

【園児情報の基本的活用】、園児情報のアセスメント、実践、実践の評価、よりよい実践へのフィードバックにあたる【園児情報の発展的活用】の2つを重要カテゴリーとして位置づけ、本システムの機能を整理した結果、【園児情報の基本的活用】には、「情報の選定」「客観的理解」「体系的理解」「複合的理解」、【園児情報の発展的活用】には、「保育目標の明確化」「根拠に基づく支援」「活動の評価」「継続的な情報活用」「関連・因果関係の検証」を意味する機能を抽出した。

(4) 考察

本システムの機能を整理した結果、本システムは、アセスメントに必要な園児情報の収集と理解、アセスメント、目標の明確化、支援、評価、継続的な情報活用、関連・因果関係の検証というPDCAサイクル展開に寄与する機能を内包することから、システムの内容的妥当性が示唆された。

4. WEB園児支援システムの内容妥当性の検証

(1) 目的

本システムの活用により向上すると考えられる保育専門職の専門性スキルを、量的に測定する「園児情報活用スキル尺度」の開発と信頼性・妥当性の検証を行った。

(2) 対象と方法

尺度開発に先立ち、本システムを使用し内容を十分に理解している、かつ、園児情報を日常的に扱っている「保育士グループ」「保健師グループ」、及び、園児情報をより活用しやすい形で提供するWEBアプリケーション開発を行っている「開発者グループ」の3種類のグループを対象に、本システムの機能に焦点をあてたフォーカス・グループ・インタビューを実施した。インタビュー記録から本尺度を構成する質問項目を作成した。保育専門職を対象とした無記名の自記式質問紙調査を実施し、作成した質問項目について、「全くそう思わない(1点)」から「かなりそう思う(5点)」までの5件法で回答を求め、因子分析により因子構造の確認と尺度項目の選定を行った。本尺度の下位尺度ごとに信頼性係数を算出した。本尺度得点と、職業経験年数、保育環境評価票得点、Communicative and Critical health literacy尺度得点についてSpearmanの順位相関係数を算出した。

(3) 結果

2因子26項目で構成される園児情報活用尺度が開発された(表1)。2因子解の因子寄与は、第1因子8.47、第2因子7.45、共通性15.92であった。各因子を構成する質問項目の特徴から、第1因子は、園児情報のアセスメント、実践、実践の評価、よりよい実践へのフィードバックに適用されるスキル「園児情報の発展的活用(12項目)」、第2因子は、アセスメントに必要な園児情報の収集と理解に適用されるスキル「園児情報の基本的活用(14項目)」であると解釈され、単純構造に近い因子パターンを有した。Cronbachの α 係数は、第1因子 $\alpha=0.93$ 、第2因子 $\alpha=0.90$ 、総合 $\alpha=0.94$ であった。職業経験年数との相関は、 $r=0.32$ ($p<0.001$)であった。保育環境評価票得点(子どもの全体像を捉える領域)との相関は、 $r=0.26$ ($p=0.001$)であった。Communicative and Critical health literacy尺度との相関は、 $r=0.49$

($p<0.001$)であった。各下位尺度との相関は、Communicative領域得点と、園児情報の発展的活用との相関は $r=0.36$ ($p<0.001$)、園児情報の基本的活用との相関は $r=0.36$ ($p<0.001$)、総合得点との相関は $r=0.41$ ($p<0.001$)であった。Critical領域得点と、園児情報の発展的活用との相関は $r=0.51$ ($p<0.001$)、園児情報の基本的活用との相関は $r=0.41$ ($p<0.001$)、総合得点との相関は $r=0.52$ ($p<0.001$)であった。

(4) 考察

因子分析の結果、想定した2因子構造が得られ、単純構造に近い因子パターンを有している結果から因子的妥当性が確認された。Cronbachの α 係数は高い値を示し、内的一貫性の側面から信頼性が確認された。保育の質向上につながる「経験年数」「保育環境評価票」との有意な正の相関が得られたことより、基準関連妥当性（併存的妥当性）が確認された。概念に共通性がみられるCommunicative and Critical health literacy尺度の各下位尺度との有意な正の相関が見られたことより、構成概念妥当性が確認された。本尺度を活用することで、保育専門職自身が、園児情報をPDCAサイクルの中で活用し、一人一人の子どもの力を最大限に引き出す「園児情報活用」を自己評価し、質の高い専門技術を検討して行ける可能性が示唆された

表1 園児情報活用尺度

質問項目(26項目) $\alpha=0.94$	第1因子 $\alpha=0.93$	第2因子 $\alpha=0.90$	共通性	
第1因子：園児情報の発展的活用				
子どもや保護者へのかかわりの評価を、次の支援に生かしている。	0.87	-0.13	0.65	
子どもや保護者へのかかわりの評価を、一時点ではなく継続的に行っている。	0.80	-0.05	0.60	
子どもや保護者へのかかわりとその効果を、子どもの発育、発達の変化から評価している。	0.77	-0.04	0.56	
子どもや保護者へのかかわりの評価を、就学後につないでいる。	0.76	0.01	0.59	
情報の蓄積が、子どもの発育、発達に影響する要因の解明につながるのだと思う。	0.73	-0.09	0.47	
子どもや保護者の情報から適切な支援方針を決定している。	0.73	0.03	0.55	
子どもや保護者へのかかわりとその効果を、育児状況の変化から評価している。	0.72	-0.07	0.46	
情報の蓄積が、将来の法の整備（乳幼児健診の時期や健診項目の決定など）にまでつながるのだと思う。	0.70	0.03	0.51	
どのような情報が子どもの将来的な自立のために必要なかがわかる。	0.67	0.12	0.56	
情報の蓄積が、子どもの発達軌跡（どのような発達をたどるのか）の解明につながるのだと思う。	0.67	-0.03	0.44	
どのようなかかわりが子どもの将来的な自立のために必要なかがわかる。	0.63	0.06	0.44	
子どもや保護者への支援の目標を明確にしている。	0.56	0.22	0.51	
第2因子：園児情報の基本的活用				
子どもの生活習慣の状態（食事、睡眠、排泄、清潔、衣服の着脱、遊びなど）を把握している。	-0.18	0.77	0.47	
子どもの基本情報（名前、生年月日、年齢、性別）を把握している。	-0.32	0.74	0.38	
保護者の就労状況（勤務先や勤務時間、勤務形態など）を把握している。	-0.13	0.73	0.44	
保護者の基本情報（大まかな年齢、家族構成、同居の有無、住所、緊急連絡先など）を把握している。	0.00	0.70	0.48	
子どもの発育・発達の状態を把握している。	0.09	0.65	0.49	
保護者の健康状態（病気や介護の有無など）を把握している。	0.05	0.62	0.43	
保護者の育児状況（子どもへのかかわり、協力者、相談者など）を把握している。	0.06	0.61	0.41	
子どもの対人関係（友だちや家族等との関係）を把握している。	-0.01	0.58	0.33	
子どもの健康状況（病気、けが、アレルギーなど）を把握している。	0.18	0.54	0.44	
様々な情報から総合的に子どもや家族を理解している。	0.22	0.53	0.45	
保護者が出している赤信号を見逃さない。	0.20	0.50	0.40	
子どもの発育、発達に関する特徴を保護者にわかり安く伝えている。	0.22	0.46	0.37	
子どもや家族を、噂や中傷に惑わされず理解している。	0.18	0.43	0.31	
子どもや家族を、思い込みや思い入れでなく理解している。	0.18	0.41	0.28	
	因子寄与	8.47	7.45	15.92
	因子間相関（Spearman順位相関係数）	0.56		

最小二乗法，プロマックス回転

Kaiser-Meyer-Olkin の本妥当性 : 0.92

3. 理解普及のための活動とその成果

(1) 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等


年月日	名称	場所	概要
H24.6.24	保育パワーアップ 研修会	筑波大学 東京キャンパス	出席者：21名 WEB園児支援システムの活用，保育eラーニングシステムの活用に関する研修を実施した。
H25.1.27	保育パワーアップ 研修会	筑波大学 東京キャンパス	出席者：20名 <ul style="list-style-type: none"> WEB園児支援システムを用いた支援設計レポート活用に関する研修を実施した。 支援設計レポートを活用した事例検討を行った。

(2) 新聞報道、TV放映、ラジオ報道、雑誌掲載等

雑誌掲載

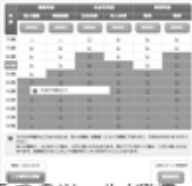
助産雑誌 vol.66 no.8 / August 2012 (医学書院)

WEBを活用した園児支援システムの紹介



WEB を活用した園児支援システム

保育パワーアップ研究会 開発
 無料(2013年3月以降は、サーバー使用料として600円/月程度がかかる見込み)
 保育パワーアップ研究会



12年間の全国保育コホート(3000名パネルコホート)研究による科学的根拠に基づき開発した5つのツール(発達評価，社会的スキル尺度，気になる子ども支援ツール，育児環境評価，保育環境評価)をWEBアプリケーション化し，より活用しやすく，柔軟性および汎用性の高い形で提供するシステム。
 WEBブラウザを使っているため成果を視覚的にとらえやすく，インターネット接続があればパソコン，タブレットなど端末を問いません。

言語：日本語
 条件：インターネットに接続できる環境があること。 <http://childnet.me/web.html>

(3) 論文発表 (国内誌 1 件、国際誌 2 件)

- 1) Anme T, et al. Does night care affect development? A five-year follow-up, Education, 2(5), 2012. (in press)
- 2) Anme T, et al. Health of School-Aged Children in 11+ Hours of Center-Based Care, Creative Education, 3(2), 263-268, 2012.
- 3) 渡辺多恵子, 安梅勅江他. クラウドを活用した園児への総合支援システムの開発—ヘルスリテラシーの視点から—, 小児保健研究, 71(5), 780-786, 2012.

(4) WEBサイトによる情報公開

- 1) 保育パワーアップ研究会
<http://childnet.me>
- 2) 子育て子育てエンパワメントに向けた発達コホート研究
<http://plaza.umin.ac.jp/~empower/ecl/>

(5) 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

①口頭講演 (国内会議 2 件、国際会議 件)

- 安梅勅江. 「子育て子育てエンパワメント WEB 活用の可能性」. 第9回 日本子ども学会議 (学術集会). JST東京本部別館 (東京). 2012年10月20日～21日.
- 渡辺多恵子. 根拠に基づく保育専門性向上 - WEB園児総合支援システム活用 法. 第65回日本保育学会. 東京家政大学 (東京). 2012年5月4日～5日.

②ポスター発表 (国内会議 1 件、国際会議 件)

- 渡辺多恵子. 保育専門職用ヘルスリテラシー尺度の開発. 第71回日本公衆衛生学会. サンルート国際ホテル山口 (山口). 2012年10月24日～26日.